



エネルギーを新しい時代へ

2035年までに目指す収支水準・財務戦略

別紙

2024年5月17日
株式会社JERA

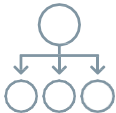
2035年度までに目指す収支・財務水準

1

従来以上に資本市場から評価される財務体質を実現する

- グローバルピア水準を踏まえて財務目標（KPI）を設定

- 連結当期利益は、遅くとも2035年度までに3,500億円達成を目指す

	 経営指標	 (参考) 2025年度目標値	 2035年度までに目指す水準
収益性	当期利益 ※	2,000億円	3,500 億円
	EBITDA ※	5,000 億円	7,000 億円
資本効率性	ROIC – WACC スプレッド ※	ROIC 4.5% WACC 3.5%	150bps 以上
成長性	投資CF	2022年度～2025年度 累計 1.4 兆円程度	2024年度～2035年度 累計 5 兆円程度
財務健全性	Net DER	1.0 倍 以下	0.5 倍 以下
	Net Debt / EBITDA ※	4.5 年 以下	2 年 以下
ご参考	ROE ※	9.0%程度	9.0%程度

※ 燃料費調整の期ずれ影響は除く

© 2024 JERA Co., Inc. All Rights Reserved.

財務戦略 – キャピタル・アロケーション –

柔軟な投資配分により、持続的成長を実現する

- 営業CFを原資として、成長戦略で掲げる3つの戦略的事業領域（SP）に、市場環境/技術革新/政策動向を見ながら柔軟に投資配分

- これにより、環境変化や政策変更に関わらず、持続的に成長できる企業体を実現する



キャピタル・アロケーション※1

Cash-in

持分売却など
1兆円

営業CF
5.5兆円

Cash-out

株主還元など
1兆円

調達－償還

投資CF
5兆円



キャピタル・インベストメント

迅速・柔軟に投資配分を変更

例:浮体式洋上風力で技術革新が進む
場合、再エネのウエイトを上昇

LNG

1～2兆円

再生可能エネルギー

1～2兆円

水素・アンモニア

1～2兆円



2035年度までに目指す事業規模

LNG取扱量
3,500万トン以上

累計開発容量
2,000万kW ※2

水素・アンモニア取扱量
700万トン程度 ※3

※1 2024～2035年度までの概算の累計

※2 市場環境を見極めながら質の高い案件への規律ある投資判断を前提

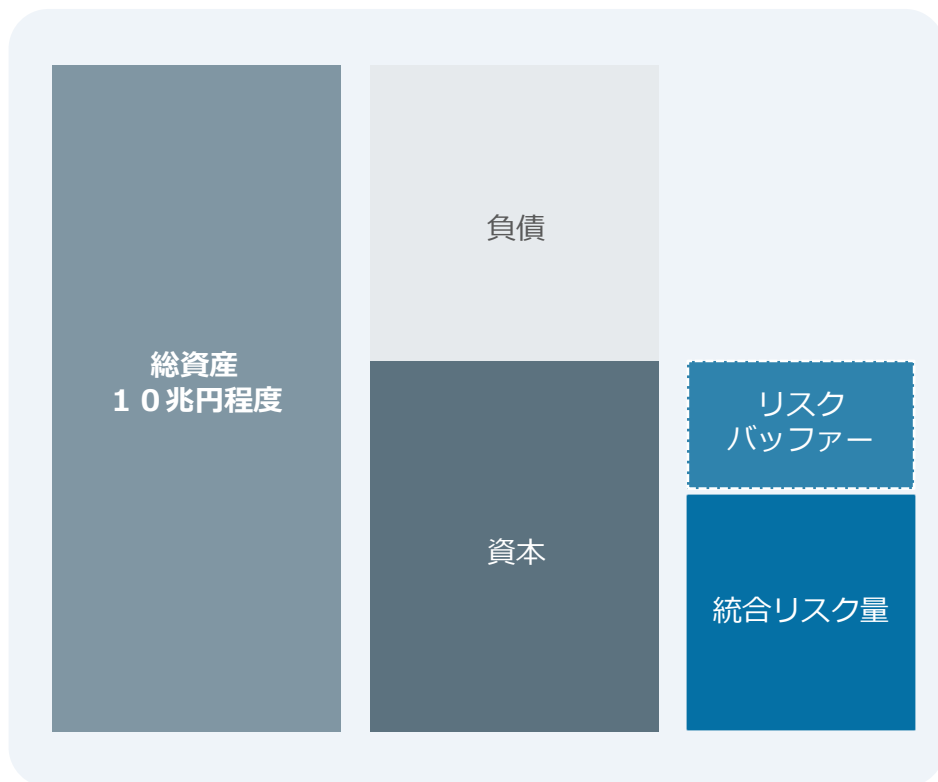
※3 本取り組みは、政策等の前提条件を踏まえて段階的に詳細化。前提が大幅に変更される場合は見直しを行う

財務戦略 – バランスシートマネジメント –

3

統合リスク量を上回る資本を保有し、信用格付 A 格を維持する

2035年度のイメージ



2035年度に向けた バランスシートマネジメント

信用格付け

A 格

Net DER

0.5 倍以下

Net Debt / EBITDA

2 年以下

※ 当社が保有するリスクを「市場リスク」「信用リスク」「オペレーショナルリスク」の3つに定義し、統計的に発生確率が計算可能なリスクである「市場リスク」「信用リスク」から統合リスク量の定量化を実施。統合リスク量とリスクキャピタルとの差分を「リスクバッファー」と定義。発生確率が計算できないオペレーショナルリスクの存在を考慮し、一定のリスクバッファーの水準を維持する方針

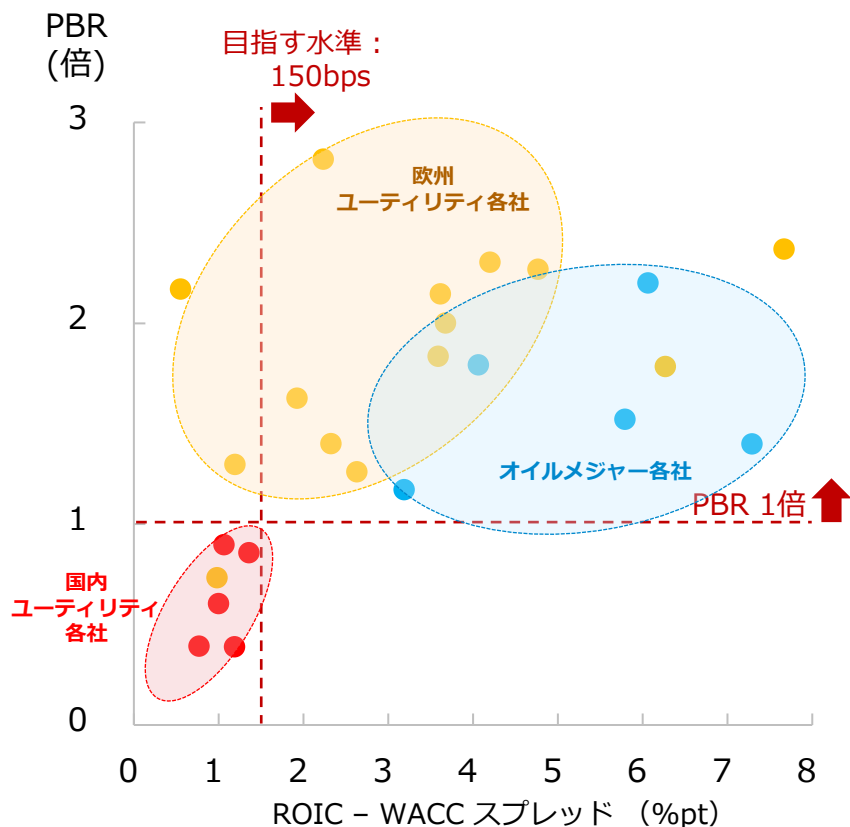
資本効率性および財務健全性の目指す水準

PBR 1 倍以上を得られる水準の資本効率性と高格付けを維持できる財務健全性を両立するKPIを設定

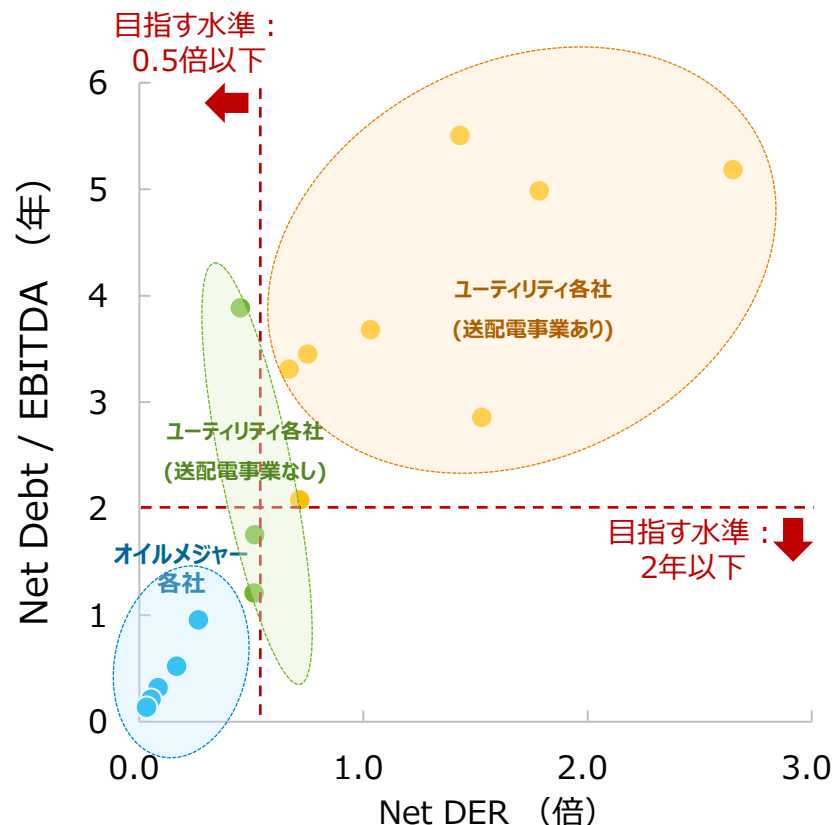
- 資本市場からの評価を得る（ $PBR > 1$ ）ため、ROIC-WACC スプレッド $> 150\text{bps}$ を目指す

- 送配電事業を持たない欧州ユーティリティ（グローバルピア）と同等以上の財務健全性を目指す

資本効率性：ROIC-WACC スプレッド



財務健全性：Net DER および Net Debt / EBITDA

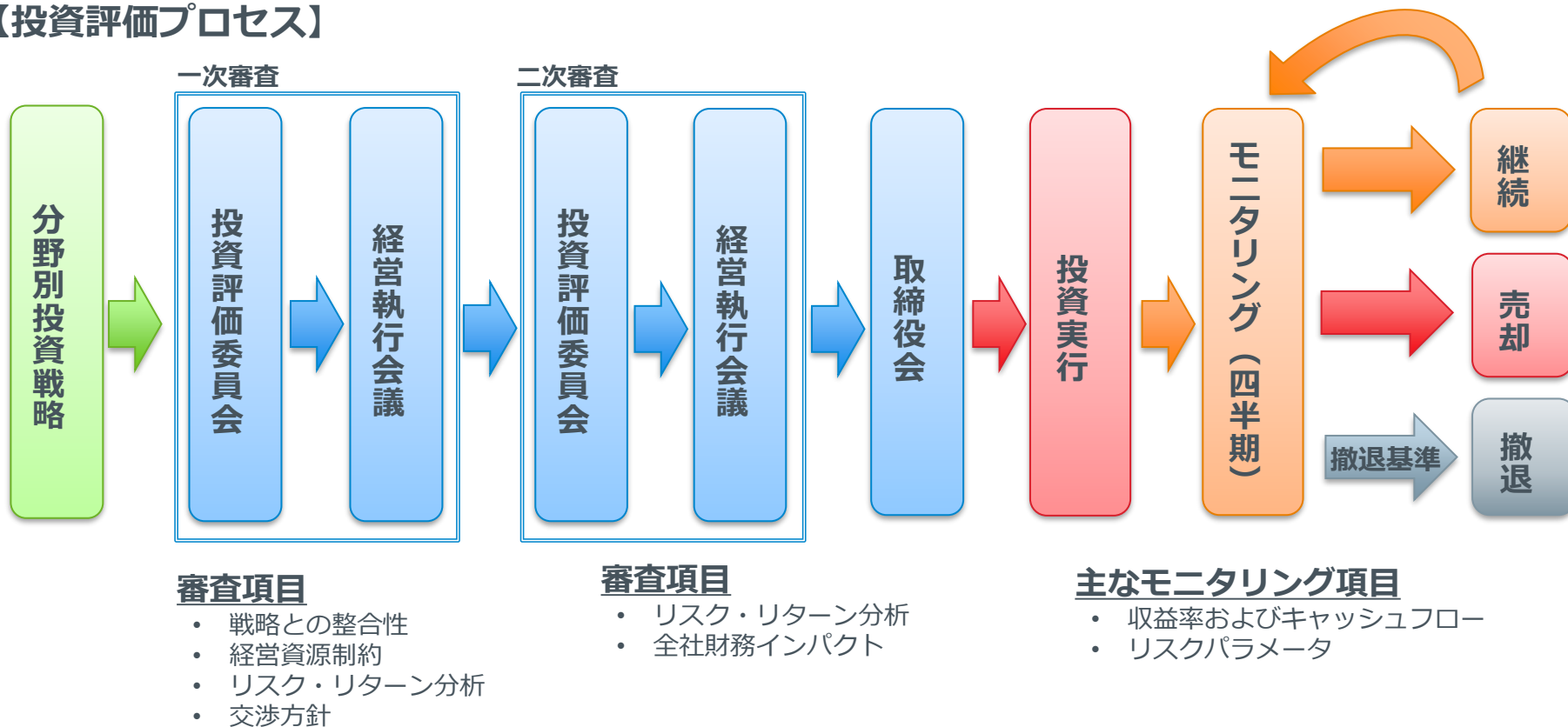


出典：各社IR資料などを基にJERA作成

厳格な投資評価プロセス

- 事業投資にあたっては、分野別投資戦略を策定した上で、金融機関等で投資審査を経験したメンバーを含む投資評価委員会による審査、定期的なモニタリング、撤退基準の設定により、リスクの適切な評価、管理を実施。
- 「リスク・リターン分析」の際には、投資対象国および事業毎に算定した200を超える目標値としての「ガイドラインレート」を活用することで、企業価値創出を担保。

【投資評価プロセス】



これまでの実績

これまでの実績（収益性）

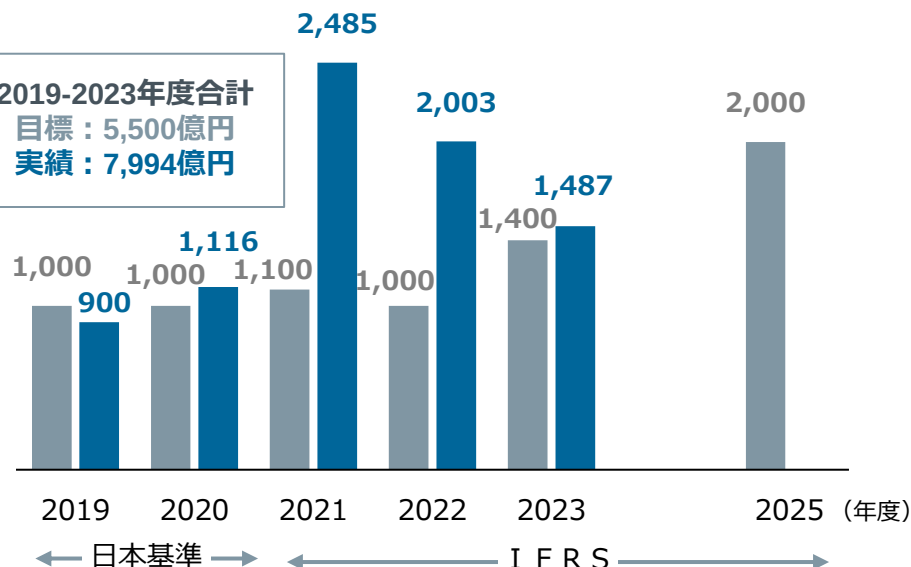
- 計画を上回る当期利益を確保。資源価格が高騰した21-22年度は計画を大幅に超える
- EBITDAは2025年度目標を上回って推移

当期利益 ※1

(億円)

■ 目標 ■ 実績

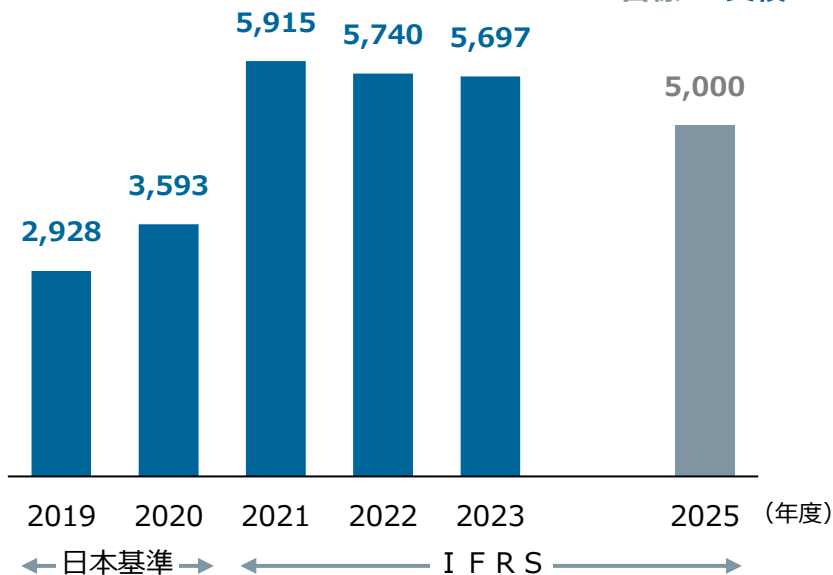
2019-2023年度合計
目標：5,500億円
実績：7,994億円



EBITDA ※2

(億円)

■ 目標 ■ 実績



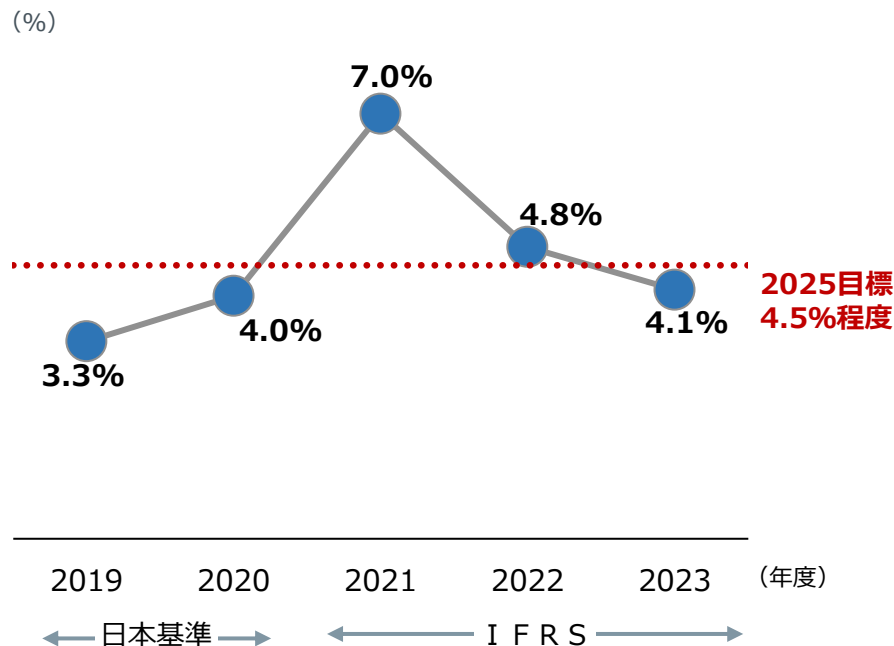
※1 当期利益は期ずれ除き
当期利益の目標は、2019～21年度は2019年4月公表の事業計画値、2022年度は2022年10月の公表値、2023～25年度は2022年5月公表の新経営目標値

※2 EBITDA = 期ずれ除き税引前利益 + 減価償却費 + 支払利息
EBITDAの目標は 2022年5月公表の新経営目標値

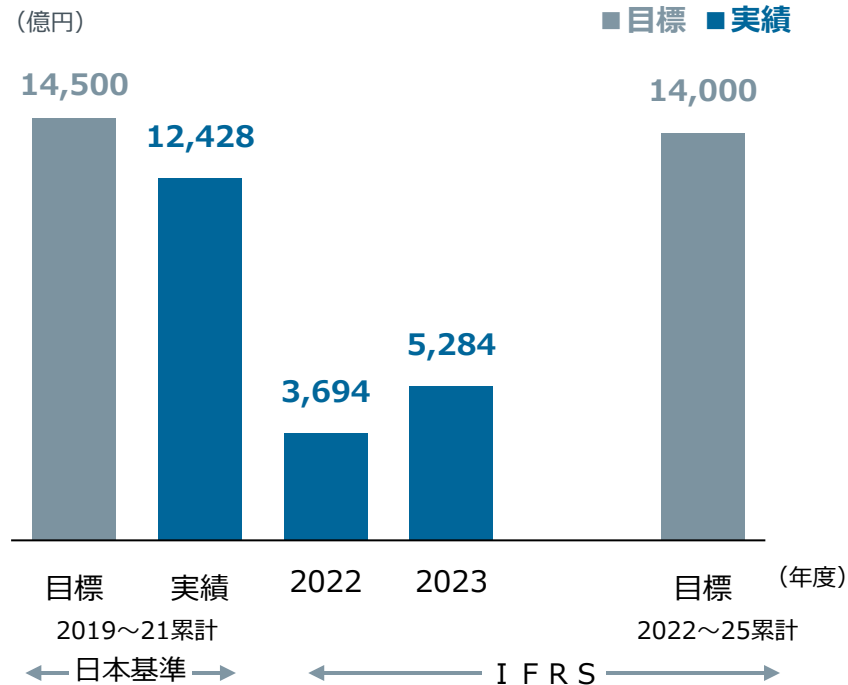
これまでの実績（資本効率性・成長性）

- ROICは年度ごとのばらつきはあるものの、25年度目標4.5%程度に向け着実に進捗
- 投資CFは2019年以降7か年で3兆円弱の投資を予定していたが、成長と規律のバランスを取りながら、概ね計画通り推移

ROIC ※1



投資キャッシュ・フロー



※1 ROIC = (期ずれ除き当期利益 + 支払利息 × (1 - 実効税率)) / (有利子負債 + 自己資本)

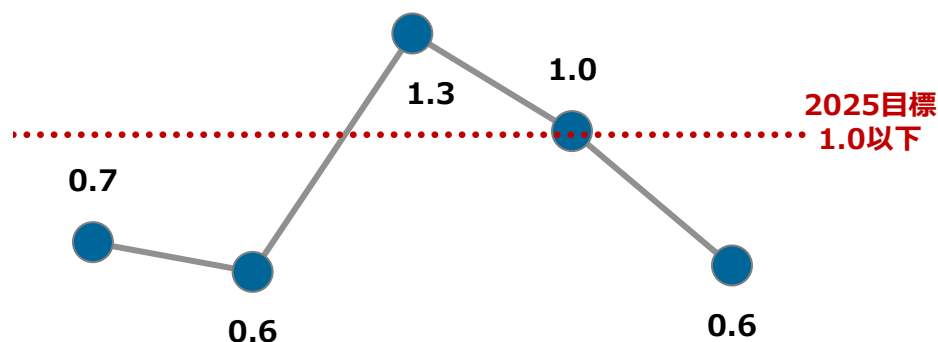
自己資本 = 資本 - 非支配株主持分、有利子負債と自己資本は期首期末平均、有利子負債は運転資金を除く現預金ネット後、実効税率は当社実効税率（有価証券報告書記載数値を参考）

これまでの実績（財務健全性）

- 足元のNet DERは25年度目標を満たす水準で推移。
ただし外部環境の急激な変化に備え、引き続き財務健全性にこだわる方針

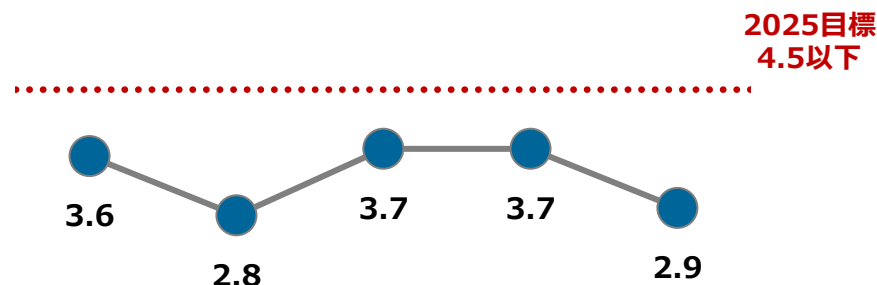
Net DER ※1

(倍)



Net Debt / EBITDA

(年)



※ 1 Net DER = (有利子負債 - 現預金) / 自己資本
自己資本 = 資本 - 非支配株主持分